

■会議結果報告書■

会議の名称	令和５年度第３回札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会 ひとり親家庭等自立促進計画作業WG
日時・場所	令和５年１２月１５日（金）１６：００～１７：００ 局会議室（WEB会議）
出席委員 ７名／７名中	加藤 弘通（議長）、箭原 恭子（副議長）、猪狩 ふみの、大場 信一 椎木 仁美、藤原 里佐、村山 光明（敬称略）

議事	概要等
○議題 「札幌市ひとり親家庭等自立促進計画」一部改定版（最終案）について	<審議概要> 事務局より、以下の内容について説明を行い、委員の意見を求めた。 「札幌市ひとり親家庭等自立促進計画」一部改定版（最終案）について <主な委員質問・意見> ○ 箭原委員 基本目標４「経済的支援の推進」の成果指標である、「家計の状況がぎりぎり又は赤字である世帯の割合」が前回から改善していないが、施策の成果が出ていないということではないか。 その中で、「ひとり親家庭等医療費助成」では今まで要望してきた親の通院医療費に対する助成という形で拡充されるのはとても有難いことと思う。しかしながら、対象が住民税非課税世帯に限定されるのはいかがか。予算に限りがあることは理解するが、所得制限があることで、「家計の状況がぎりぎり又は赤字」からなかなか抜け出せないのでは。 ○ 事務局 市の財政状況を鑑みると、国の制度の動きを見ながら、事業展開を行っているところ。ただ、医療費助成については拡充を図っていくということで、札幌市もこうした施策を行った。国では児童手当や児童扶養手当の支給額見直しも検討されているところであり、そういった点も踏まえながら経済的な支援を行ってまいりたい。 また、成果指標の数値としては、正社員の割合等、改善している部分もあるが、改善していない部分もあるため、引き続きご助言いただきながら尽力してまいりたい。

	○ 箭原委員 国の制度に準じるだけでなく、札幌市独自の支援も実施してほしい。 確かに正社員の割合は増えているが、正社員になっても給与が上がらない・子どもの教育費が高すぎる等の理由で、なかなか家計の改善に繋がっていない。就業支援ももちろんだが、子どもに対する施策をより手厚くすることで、家計状況も改善すると考える。 ○ 藤原委員 基本目標 3「養育費確保の推進」の説明の中で、従前の「面会交流」という言葉に代わり、「親子交流」という言葉を使っていたが、適当だろうか。 面会交流と言うと、実際に子どもに会って交流するような印象だが、親子交流と言うと手紙や SNS、誕生日プレゼントのやり取り等、面会以外の交流を想像してしまう。 ○ 事務局 国の共同親権の議論の際に、従前の「面会交流」という言葉が誤解を受けやすいのではないかという意見があり、今年度から「親子交流」という言葉を使い始めたと聞いている。他自治体では表現を併記しているところもあり、本市でも注釈を付けるなり誤解のないよう考えてまいりたい。 ○ 藤原委員 承知した。目標・指標等の中に面会という言葉がなくても、具体的な事業名には残した方が良いのでないか。親子交流と言うと、やや漠然とした印象を受けるため、併記が望ましいと思う。 ○ 大場委員 面会交流の取決めに関して数値目標があるが、「面会をする」という取決めだけでなく「面会をしない」という取決めもあると思う。この数値目標は、「面会することを取決めした」割合のことなのか、それとも、面会の有無にかかわらず「話し合いができています」ことを目標にしているのか、その説明を付記したほうが良いのでは。
--	--

	○ 事務局 今回のアンケートでは、養育費・面会交流について取決め自体をしたか・していないかという聞き方をしている。したがって、例えば養育費を「払わないことを決めた」かどうかということは今回調査していない。 養育費や面会交流に関してはデリケートな問題も含まれるため、今後も丁寧な記載を行ってまいりたい。 ○ 猪狩委員 母子生活支援施設について、認知度は向上しているものの、活用に繋がっていない部分があると思う。 今回の計画にも色々と掲載されているが、メインとなっている今後の機能強化の話だけでなく、実際に今どのような支援が行われているのかといったベースの部分についてより理解が深まるような記載をしてもらい、それにより認知度の向上・活用に繋がってもらえれば。 ○ 事務局 計画本書に、これまで児童福祉部会で議論してきた、母子生活支援施設の目指すべき方向性について記載している。今後の認知度向上については事務局としても課題として捉えており、今後も共に取り組んでまいりたい。 ○ 加藤議長 基本目標 1 の成果指標である「子どもに対して悩みを持っている方の割合」に関連して、子どもの年齢が低いうちは、特に父子家庭では発達・健康に関する悩みが多いなど、母子家庭と父子家庭でニーズが少し異なるようだ。それぞれのニーズの違いを捉え、それぞれの状況に応じた支援施策を立てることにより、指標達成度も上がってくるのではないかな。 ○ 事務局 ご指摘のとおり、低年齢の父子家庭の子については抱える悩みが異なる傾向にある。概要版資料では主な部分のみ取り上げているが、記載を工夫するとともに、今後の施策を進める上でも、父子家庭に対しどのような支援ができるかといった視点でも取り組んでまいりたい。
--	--

	○ 加藤議長 多くの意見をいただいたが、全体を通して他に何かないか。 今回の議論をふまえ、計画案に修正が加わるという認識でよろしいか。 ○ 事務局 先ほどの面会交流部分の記述や補足、父子家庭の部分については記述の仕方を少し修正したい。 ○ 加藤議長 承知した。今回の意見を踏まえ計画案の修正を検討していただき、次回の児童福祉部会にて改めて報告をお願いします。WG は今回が最終となるが、何か伝達事項があれば。 ○ 事務局 多くの意見を頂戴し、お礼申し上げる。来月 1/30 に開催予定の児童福祉部会にて、資料修正の上、最終案についてご報告予定。 WG としては本日が最後であるため、子育て支援部長よりご挨拶申し上げます。 ○ 事務局（子育て支援部長） この WG も今回が最後であるが、計画改定の各段階でご意見を頂戴し、改めて感謝申し上げます。 本計画は児童福祉部会での報告を経て、今年度中に策定予定であり、今後はこの改定計画に基づいて具体的な事業を展開する。 WG の検討の中では、計画そのものに対する意見は勿論、具体的な事業実施に当たっての細かな視点や注意・ご指摘を様々ないただいた。それらもしっかりと反映して進めてまいりたい。 また、国の方針としても、「こどもまんなか社会」というような子育て支援の大きな転換気運・機会があり、札幌市としてもこれを逃すことなく進めていきたい。 委員の皆様には、引き続き様々な機会でご支援・ご指導いただきたい。改めてお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。
--	---

	○ 加藤議長 これにて、令和５年度第３回札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会ひとり親家庭等自立促進計画作業ワーキンググループを終了する。ご協力感謝申し上げます。
--	--